



Be the **Right ONE**

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

豊田通商グループは経営戦略に基づいて注力していく社会課題を明確にするため、企業理念・Global Visionの実現を目指す上で意識すべきサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)を特定しています。特定にあたっては経営層をはじめ、社内外さまざまなステークホルダーの皆さまのご意見を取り込み、議論を重ねました。

当社の事業活動が持続的な開発テーマに与える影響を見える化するため、マテリアリティ毎に中期のKPIを定め、PDCAを回して達成状況を確認していきます。社員一人ひとりがこのマテリアリティを意識して事業活動に取り組むことで、会社も社員も持続的に成長し、社会課題の解決やSDGsへの貢献につなげます。

豊田通商グループのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

社会課題の解決と会社の成長を両立する最重要課題

交通死傷者ゼロを目指し、安全で快適なモビリティ社会の実現に貢献



クリーンエネルギーや革新的技術を活用し、自動車/工場・プラントCO₂を削減することで、脱炭素社会移行に貢献



廃棄物を資源化することで、モノづくりを支え、循環型社会に貢献



豊田通商グループのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)



アフリカをはじめとした開発途上国と共に成長し、事業を通じて社会課題の解決に取り組む



会社の成長を支える土台となる最重要課題

安全とコンプライアンスの遵守をビジネスの入口とし、社会に信頼される組織であり続ける



人権を尊重し、人を育て、活かし、「社会に貢献する人づくり」に積極的に取り組む





サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

～脱炭素社会実現に貢献する再生可能エネルギー事業～

国際社会の共通目標としてサステナブル（持続可能）な社会の実現を目指すSDGs。豊田通商グループは、その中でも電力事業分野において脱炭素社会実現に貢献する事業として、風力発電・太陽光発電・バイオマス発電・水力発電など、さまざまな再生可能エネルギー事業をグローバルに展開し、電力安定化に取り組んでいます。

風力発電事業においては、時代に先駆けて1987年に米国で事業を開始して以来、30年以上にわたり再生可能エネルギー事業に携わっています。欧州やアジア、アフリカへと事業地域を展開し、国内では1999年に北海道でウインドファームを建設。現在は国内の風力発電事業者としては最大規模へと成長しています。

海外では、エジプトで初めてとなる民間事業者による風力発電事業に参画しました。エジプトで建設を進めていた262.5MWの風力発電所が2019年10月31日より商業運転を開始、20年間にわたり発電所を保有・運営し、エジプト送電公社向けに売電します。

また、エネルギー源の多様化を目指し、国内外での太陽光発電事業や、特に国内においては木質バイオマス発電事業、中小水力発電事業を手掛けるなど、現在までにグローバルで総発電容量3,500MWを超える事業にまで成長しています。（2021年4月時点）

豊田通商グループは、「再生可能エネルギー」を成長戦略の1つに位置付け、エネルギー源の多様化と事業地域の拡大に取り組み、再生可能エネルギー事業の強化を図るとともに、脱炭素社会実現に貢献していきます。



エジプトの風力発電事業